受賞者氏名	丹羽　郁夫	
所属	現代福祉学部臨床心理学科	
受賞年月日	2024 年 3 月 16 日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	日本コミュニティ心理学会	
受賞名	日本コミュニティ心理学会出版賞	
受賞(研究)内容詳細	著書:『コンサルテーションとコラボレーション』(2022 年、金子書房)の編者および2つの章の執筆者として受賞しました。共編者は久田満(立正大学特任教授、上智大学名誉教授、法政大学大学院兼任講師)です。 本書では、コンサルテーションとコラボレーションという、カウンセリングとは異なる、2つの支援方法についての概説を第 1 部でそれぞれの章を割り当てて行っています。前者のコンサルテーションについては、理論によって、その考え方と進め方が異なっています。そこで第2部では、精神分析、行動、システム、解決志向、アドラーの5つの理論に基づいたコンサルテーションについて、それぞれ1つの章で、各専門家が詳しい解説をしています。 私はコンサルテーションの全体的な解説と、精神分析の理論に基づいたコンサルテーションに関する章を執筆しました。コンサルテーションは、心理臨床の専門家(コンサルタント)が困難を抱えた人(クライエント)に直接支援するのではなく、その身近にいる親や学校の担任、職場の上司(コンサルティ)などを支援することで、コンサルティがクライエントに対してより適切な理解と支援を行い、その困難を軽減する支援方法です。つまり、クライエントに対してコンサルティを媒介にして、間接的な支援を行うのがコンサルテーションです。この支援方法にはいくつか利点がありますが、その主なものは、クライエントが専門機関に繋がる必要がない点と、コンサルティが成長するため、似た課題をもった人には、一人で直ぐに対応できるようになるという点です。一方、コラボレーションはクライエントに対して、間接支援だけでなく、直接支援も行う点でコンサルテーションと異なります。 精神分析的なコンサルテーションは、仕事の知識もスキルも高く、経験も豊富な専門家が、過去の体験の影響から、クライエントについて客観的に認識することができず、その支援に失敗し続けている場合に有効なものです。その専門家の過去の体験を扱う、つまりカウンセリングを行うことなく、客観性を維持できるようにする方法を用います。この方法は、コンサルテーションの基盤を作ったキャプラン(Caplan, G)が考案したもので、彼は「主題妨害低減法」と呼びました。 2つの支援方法は、さまざまな現場や状況、支援対象者で実践されています。そこで第3部では、コンサルテーションについて、教育と医療、産業・労働といった分野での具体的な実践を、それぞれの実践家の方々にご執筆していただきました。コラボレーションについても、第4部で、教育と医療、精神障害者や高齢者の地域支援、犯罪防止、多文化社会といった分野での具体的な実践を、それぞれの実践家の方々にご執筆していただきました。	